

鴻巣市教育委員会

1 鴻巣市の概要

鴻巣市は、かつては中山道の宿場町、近年は「ひな人形と花のまち」として知られ、平成17年10月には、吹上町、川里町と合併し、人口約12万人、小学校19校、中学校8校を擁する都市となった。今回のモデル事業の対象である川里中学校区は旧川里町の地域にあり、全校生徒数214人の川里中学校と全て単学級の屈巢・共和・広田の3小学校で構成されている。小学校での児童は安定した生活を送っているが、人間関係が固定しやすく、環境の変化に柔軟に対応していく力が十分ではない点が課題である。人間関係や学校生活等、環境が大きく変化する中学校では、学年が上がるにつれて不登校生徒数が増加する傾向があり、県の不登校の割合を超えている現状がある。

2 研究の構想

(1) 基本方針

川里中学校区内の生徒指導体制を小中一貫の観点から見直しを図り、児童生徒のより良い学校生活に結び付ける。

(2) 目的

- ① 中学校入学前後における児童生徒の不安や悩みを解消することで、生徒指導上の課題、特に不登校の解消を図る。
- ② 市重点施策である「保育所、幼稚園、小学校、中学校の緊密な連携をもとにした0歳～15歳までの一貫した教育の支援」実現を目指し、小中一貫教育の研究実践を推進する。

(3) 目指す児童生徒像

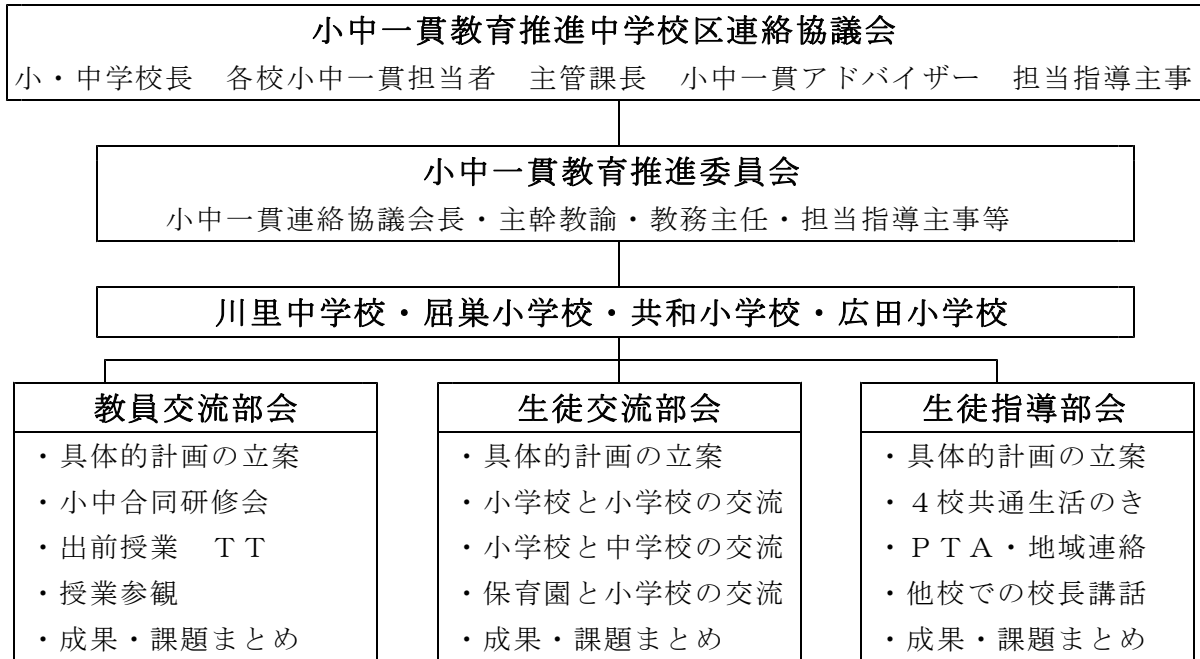
「いきいきと主体的に活動する川里の子どもたち」

(4) 推進の視点、方法

- ① 小中一貫システムの3つの柱
 - 1 組織・運営の一貫
 - 2 学習指導・学力形成の一貫
 - 3 情操教育・生徒指導の一貫
- ② 小中一貫教育で期待される効果
 - ・児童の中学校進学や中学校生活への心理的な不安の解消が図れる。
(学校生活・生活のきまり・学習)
 - ・小中教員の授業交流による授業改善が図れる。
 - ・同年齢・異学年の活動を計画的に実践することを通して、人と関わる

力を高めることができる。

③ 調査研究の推進体制



3 研究の取組事例

(1) 取組状況

① 取組経過

	実施時期	主な内容
1 学 期	5月19日(木)	小学校6年生バスケットボール大会
	6月	「ハイパーQUアンケート」の実施① (小学校5・6年生 中学校1・2・3年)
	6月6日(月)～6月10日(金)	中学生の小学校でのあいさつ運動①
	7月5日(火)	3小学校合同林間学校事前練習 於屈巢小
夏 休 み	7月22日(金)～7月24日(日)	3小学校合同林間学校(5年)
	サマースクール(屈巢小)	中学生が小学生の勉強をサポート
	8月24日(水)午前	川里4校の合同研修会 於 農業研修センター
2 学 期	9月17日(土) 川里中体育祭	3小学校6年生の開会式・徒競走の参加
	9月24日(土) 屈巢小運動会	吹奏楽部の演奏(入場行進・国歌・退場)
	10月1日(土) 共和小運動会	吹奏楽部の演奏(入場行進・国歌・退場)
	10月12日(水)～10月14日(金)	中学生職場体験学習 各小学校に2名
	10月～12月	生徒指導主任会 共通の生活のきまりの検討
	11月25日(金)	県教育局県立学校部生徒指導課視察
	11月28日(月)～12月2日(金)	中学生の小学校でのあいさつ運動②
	11月～12月	「ハイパーQUアンケート」の実施②全学年
	12月8日(木)	3小学校合同学習会(於 川里中)

3 学 期	1月30日(月)～2月3日(金)	中学生の小学校でのあいさつ運動③
	1月31日(火)	川里中入学説明会・部活動体験入部
	1月31・2月1日・2月3日	保育園年長児と小学1年生との交流会(各小学校)
	2月8日(水)	川里中学校区学校・家庭・地域連絡会(於 川里中)
通 年	・中学校教員の小学校への出前授業 ・中学校教員と小学校教員のTT ・会議「小中一貫教育推進中学校区連絡協議会」(年4回) ・会議「小中一貫教育推進委員会」(年19回 1学期7 2学期7 3学期5) ・「川里中学校区小中一貫教育だより」の発行(学期に1回発行)	

② 小中一貫に係る人員の配置

中学校に音楽科と外国語科の非常勤講師を各1名配置し、主にTTや本務者の小学校へ出前授業の後補充を行った。元校長を小中一貫教育アドバイザーとして配置し、指導・助言をいただいた。

③ 学級アセスメントの実施

2回目は、全学校全児童生徒が実施。合同研修会の講演会を生かし、各担任を中心に、児童生徒一人一人の実態を把握した。二者面談・三者面談等の教育相談及び日常の支援を生かし、学級経営の改善を図った。

④ 小中学校教職員の交流・意識改革

合同研修会に4校全ての教職員が参加し、小中一貫教育の意義や方向性について共通理解を図った。また、全員がいずれかの部会に所属し各テーマに基づき協議した。出前授業やTTを通し、生徒指導面だけではなく学習面での小学校から中学校への接続の大切さを認識した。

⑤ 児童生徒の交流

中学校入学前に、他校児童と交流を深めることで、中学校での良い人間関係づくりへつながる安心感を与えられた。

⑥ その他特色のある市町村の取組

中学校体育祭への小学校6年生の参加(開会式・徒競走)。小学校の運動会に吹奏楽部の参加(入場行進曲・国歌等の演奏)。3小学校6年生の中学校会場での合同授業。保育園年長児と小学校1年生との交流会。

4 研究成果及び今後の課題

(1) 成果

	平成21年度	平成22年度	平成23年度 ※2学期末
不登校者数	12名(中12)	9名(中9)	4名(小1・中3)

- ・様々な行事や交流活動を通して、他校の児童の様子を知ることができた。6年生の中学校進学や中学校生活に対しての不安が減った。
- ・「生徒指導部会」を中心に、4校統一した生活のきまりを策定した。

- ・「出前授業」や「ティームティーチング」により小・中学校の学習の接続の大切さを認識することができた。

(2) 課題

- ・保護者や地域へ趣旨の周知及び取組の公開により協力体制を築く。
- ・進路指導・キャリア教育、学力向上の面からも連携を図る。
- ・教職員への負担感を増さないように配慮する。

※「平成23年度埼玉県小・中学校学習状況調査」の「質問紙」で「みんなの前で意見をはっきり言える」に対しての、中学校の回答が県や市の割合から10ポイント下回っている。「いきいきと主体的に活動する川里の子どもたち」の育成のため、この課題に正対し改善を図っていく。

【取組事例】



あいさつ運動



T T授業（中学校）



中学校教員による出前授業（外国語活動）



中学校教員による出前授業（音楽）



林間学校事前合同練習



小・中学校教職員合同研修会



中学校体育祭6年生参加



小学校運動会吹奏楽部演奏参加



中学生の小学校での職場体験学習



小中合同授業（音楽）



体験入部



学校・家庭・地域連絡会